

輪島の中学生の力に 勝浦中生が朝市で募金活動 学用品やメッセージ送る

2024年1月13日(土) 千葉日報 WEB版

互いに伝統の朝市が開かれるまちであることから、能登半島地震で大きな被害を受けた石川県輪島市の中学生を支援しようと、勝浦市立勝浦中学校の生徒たちが13日、勝浦朝市で募金活動を行った。現地の中学校から希望があった学用品や参考書を寄付金で購入し、輪島へ送る。輪島市は地震で大規模火災が発生し朝市エリアが焼失。市内の3中学校は被災したうえ避難所となって授業再開の見通しが立たず、中学生の市外への集団避難が検討されている。



↑ 勝浦朝市で石川県輪島市への支援募金や応援メッセージを募る勝浦中生＝13日午前、勝浦市

同じ中学生の力になろうと、勝浦中の生徒会が校長を通じて輪島中に支援を提案。不足している文房具などの学用品や3年生の高校受験問題集・参考書、応援メッセージを希望されたことから、朝市で募ることにした。

生徒会役員が遠見岬神社前にブースを設けたり、「輪島に想いを届けよう」と書かれた募金箱を持って朝市通りを回ったりしながら「輪島市への募金とメッセージにご協力お願いします」と呼びかけ。足を止めた来訪者や出店者に「ありがとうございます」と頭を下げた。

メッセージカードには「力を合わせて頑張りましょう」「一日も早く笑顔が戻りますように」「輪島の朝市が復活したら必ず遊びに行きます」などの励ましの言葉が書き込まれた。



↑ 募金箱を持って朝市を回る勝浦中生＝13日午前、勝浦市

生徒会長の2年、遠山晃平さん(14)は輪島の中学生へ「被災して悲しい思いや大変な思いをしていると思うが頑張って。にぎやかな朝市が戻ってほしい」とエール。2年の佐々木優妃奈さん(13)も被災地の様子を知って「自分も苦しくなる」と被災者に思いを寄せ「支えてあげたい気持ちが強い。少しでも協力できれば」と話していた。

寄せられた応援メッセージ→



朝市での募金活動は14日も行う。その後は校内で募金や未使用の学用品を募り、卒業生にも協力を呼びかける。寄付金で購入する品や応援メッセージは、輸送方法を確認しながら1月末にも輪島へ届ける。

輪島の仲間に思い届け

「一緒に前へ進みましょう」

勝浦市立勝浦中学校（生徒262人、岡安和彦校長）の生徒たちが24日、能登半島地震で大きな被害を受けた石川県輪島市の中学生へ学用品や参考書を送った。街頭募金を行って購入するなどしたもので、「一緒に前へ進みましょう」といった応援メッセージを添えた。互いに伝統の朝市が開かれるまちに住む縁でつながった“仲間たち”に思いを届けた。



能登半島地震で被災した石川県輪島市の中学生へ送るノートや参考書を仕分けする生徒たち＝勝浦中

勝浦中生が学用品送る

募金結実、
応援メッセージ添え



輪島の中学生への応援メッセージを貼り付ける勝浦中生

同じ中学生の力になろうと、勝浦の朝市や校内で行った募金で約76万6千円が寄せられ、賛同した市民や事業者からの浄財と合わせて235万3千円余りが集まった。この寄付金で購入したり、卒業生らが持ち寄ったりして用意できた支援品は、筆記用具類1565点、ノート837冊、問題集・参考書1791冊、ファイル969冊など段ボール60箱になった。生徒会の2年生を中心に3日かけて支援品を仕分けし箱詰め。江沢真彩さん（14）は「少しでも多くの支援が届けばと思い活動した。力になれば」と話し、渡辺湊さん（14）は「大変な状況だけれど一緒に頑張りましょうと声をかけたい」と輪島の中学生にエールを送った。

輪島市内の中学校3校は避難所になり、3校の生徒約400人のうち260人近くが、100キロ以上離れた金沢市に隣接する白山市の体験学習施設2カ所に集団避難している。勝浦中の支援提案に対し、学用品や参考書の希望があり、避難している施設へ25日に届けられる予定。

輪島中の永草正彦校長によると、中学生たちは友達と会えて笑顔で集団避難生活を過ごし、施設内や近隣の学校で授業を受けている。勝浦中の支援に永草校長は「勉強ができるか不安に思っていた生徒たちの力になる。大変ありがたい」と感謝の言葉を述べた。



支援品が入った段ボールの配送作業をする勝浦中生＝24日、勝浦市

中学生たちの「友情の贈り物」… 千葉・勝浦から被災地・輪島に 日本三大朝市の縁で募金を集めて学用品発送

千葉県勝浦市立勝浦中学校の生徒たちが、能登半島地震で被災した石川県輪島市の中学生に募金活動などで購入した学用品を送った。観光名所「輪島朝市」は地震に伴う大規模火災で壊滅状態。同じく日本三大朝市の一つに数えられる勝浦朝市の地からの友情の贈り物だ。

◆「いっしょに前進」

手書きの応援メッセージ

支援活動は、勝浦中学生徒会が朝市つながりから「同じ中学生の力になりたい」と提案した。生徒たちは13、14日の勝浦朝市と校内での募金活動を実施。市民や事業者からの善意と合わせて約235万円が集まった。



勝浦朝市で募金を募る勝浦中の生徒ら＝千葉県勝浦市で

学用品は筆記用具1565点、ノート837冊、問題集・参考書1791冊、ファイル969冊など。寄付金で購入したほか、生徒の思いに共感した卒業生や保護者らからも寄せられ、24日に発送した。「困ってる時はお互いさまなので感謝しないで。応援しています」「いっしょに前進」など手書きの応援メッセージも添えた。

輪島市では校舎が避難所に使われるなどして学校再開の見通しが立たず、中学生約400人のうち半数以上が約130キロ離れた石川県白山市の県立施設に集団避難している。

勝浦中の岡安和彦校長によると、今月中旬に電話で連絡を取った輪島市の中学校の校長は「被災した生徒の教科書類もまだ届いていない状況。勝浦中から届けられる学用品、参考書・問題集、メッセージは避難生徒の励みになると思う」と話していたという。

生徒会役員の2年鈴木聖也さん（14）は「三大朝市でつながっている輪島の人たちが困っている姿をテレビなどで見て、支援したい気持ちになった。朝市では業者の人たちも協力的で心温まった」と話した。



石川県輪島市の中学生に送る参考書や問題集を選ぶ生徒たち

輪島の中学生へ 光届けたい

能登半島地震で被災した石川県輪島市の3校の中学生に向けて、千葉県勝浦市立勝浦中学校の生徒たちが寄付金を集め、参考書やノートなどを購入して現地へ送った。ともに朝市が有名で、窮状を知った勝浦中の生徒らが「支援したい」と声を上げた。

輪島の中学生に参考書や文具送る 勝浦中学生が地元の朝市で寄付集め



輪島朝市は、勝浦市や岐阜県高山市の朝市とともに「日本三大朝市」といわれる。今回の地震で朝市が開催される市街地は大規模火災が発生。3つの市立中は避難所となっている。

中学生約400人のうち約250人が親元を離れ、約100キロの距離のある県南部の白山市の体験学習施設に集団避難し、近くの学校で授業を受けている。

⇐メッセージを貼り付ける勝浦中の生徒ら = 1月23日、勝浦中 千葉県勝浦市出水

こうした状況を受け、勝浦中の生徒会の生徒が、共通して朝市が有名な輪島の力になりたいと岡安和彦校長に相談。岡安校長が輪島中の永草正彦校長に連絡して尋ねると、問題集・参考書や文房具などの学用品、応援メッセージの要請を受けた。

生徒会役員とボランティアの計15人の生徒が中心となり、13、14日には勝浦の朝市通りで寄付金を募った。観光客らから「がんばって下さい！」などといった約250枚の応援メッセージも集まった

勝浦中の生徒と教職員も計約290枚のメッセージカードを書いた。

「負けずに元気で過ごして下さい」「不安が少しでも早く無くなるように勝浦の空から祈っています!」「三大朝市の復旧祈る!雲の上はいつも晴れ」一日も早い復旧を願って、励ましの言葉を寄せた。

校内でも寄付金や未使用の学用品を募り、卒業生にも協力を呼びかけた。地元事業者や個人からの寄付もあり、集まったのは計約235万円。この寄付金などで中学1～3年生用の5教科の参考書計1400冊や新品ノート900冊といった文房具も用意できた。

生徒らはメッセージを大きな紙に貼り付け、荷造りを進めた。段ボール60箱にもなった支援品は24日に発送、翌25日に現地に着した。

輪島中の永草校長によると、段ボールを開けた生徒たちはうれしそうに参考書やメッセージを手にしたという。

永草校長は「勉強ができるか不安に思っていた生徒たちも喜ぶ。勝浦中や勝浦市民の皆さんには感謝している」と述べた。

勝浦中生徒会役員の2年、笠原 恋莉(ここり)さん(13)は「被災地のみなさんはつらいと思う。少しでも光を届けることができればと思って活動し、周りの人たちにも協力してもらった。明るい輪島を一日でも早く取り戻してほしい」と話している。



文房具をまとめる勝浦中の生徒ら = 1月23日、勝浦中 千葉県勝浦市出水